

右の表によれば、失業の増大の最も甚だしいのは、ドイツ、イギリス、アメリカなどでその傾向を知るに足るものとして、次の三表を掲げることが出来る。

【第一表】官廳統計による世界失業数推定（単位：千人）

	1929年		1931年	
	6月	12月	6月	12月
ドイツ	2,850.8	4,383.8	63.6	71.1
イギリス	15.8	25.1	3.6	9.3
フランス	62.6	8.5	1.0	11.0
オーストラリア	0.8	0.8	4.2	2.2
イタリア	1,344.2	1,911.7	2,449.8	341.1
オーストラリア	408.7	322.3	179.6	239.8
オーストラリア	70.0	47.4	2.5	80.6
オーストラリア	265.7	185.3	27.7	25.6
オーストラリア	54.0	52.8	73.5	230.8
オーストラリア	2.3	2.3	19.8	25.6
オーストラリア	292.3	292.3	378.5	375.0
オーストラリア	56.8	80.6	102.9	102.9
オーストラリア	19.8	21.3	23.3	23.0
オーストラリア	300.0	500.0	750.0	750.0

かうした失業洪水のうちにあつた、強制失業保険を有する國は世界七十ヶ國のうちで僅かに九ヶ國であり、その適用を受ける労働者は約三千五百萬人に過ぎぬ（一九三一年一月國際労働局の推定による）。しかも、失業洪水の真最中に於て一方には、各國財政の破綻から、その埋め合せを失業保険の改悪に求めんとしてゐる。本年春の獨逸の社民黨内閣の倒壊英國労働黨の分裂など、何れもこの影響による。

（4）労働賃銀の切下げ

かゝる失業の洪水が同時にまた、就業労働者の賃銀切下げをもたらすことはいふまでもない。賃銀の實質的切下げは、既に歐洲大戰直後から相對的安定期を通じて強行せられて来たが、世界恐慌に突入すると共に、更にこれに拍車をかけられた。殊に、最近二年間を通じて現はれたる賃銀切下げは、最早、産業合理化によるスピード、アップ、能率増進、労働強化の如き方法によるものより進んで、露骨に賃銀そのものの削減を目指して強行せられる傾向を明かにしてゐる。これは、恐慌が最後のどん詰りに来て、市場は行詰り生産は低減した結果、最早、労働者の名目賃銀に對して攻勢に出る以外に、資本家階級の生きる途がなくなつたことを物語るものである。殊に、この方法は資本家政府の『失業對策』の口實の下に強行せられた。即ち、資本家政府は『失業對策』の名の下に失業労働者を就業せしめ、それによつて失業救済のため政府の負債を節約し、官廳の統計の帳から失業労働者の激

【第二表】各國の失業率（一九三一年末現在）

國別	失業率	
	總人口	労働人口
ドイツ	6.8	13.3
イギリス	6.1	13.15
フランス	5.5	12.1
オーストラリア	5.1	9.2
オーストラリア	3.3	7.8
オーストラリア	2.8	6.2
オーストラリア	2.7	5.6
オーストラリア	1.7	4.4
オーストラリア	1.5	3.5
オーストラリア	1.4	3.0
オーストラリア	1.2	3.3
オーストラリア	1.0	2.4
オーストラリア	0.9	1.5
オーストラリア	0.9	1.8
オーストラリア	0.6	1.2
オーストラリア	0.6	1.0
オーストラリア	0.4	0.7

また、一九三一年一月、プロロインテルンの推定次の如し

【第三表】失業率三十萬以上の諸國

國別	1930年1月	1931年1月
アメリカ合衆國	5,000,000	10,000,000
ドイツ	3,500,000	5,000,000
フランス	2,500,000	4,000,000
イギリス	1,500,000	3,000,000
日本	1,000,000	2,000,000
イタリア	800,000	1,800,000
オーストラリア	300,000	1,100,000
オーストラリア	300,000	750,000
オーストラリア	32,000	600,000
オーストラリア	—	600,000
オーストラリア	200,000	550,000
オーストラリア	—	500,000
オーストラリア	—	500,000
オーストラリア	—	400,000
オーストラリア	—	400,000
オーストラリア	—	350,000
オーストラリア	—	350,000
オーストラリア	—	300,000

増を緩和せしめるのであるか、その尻は、従来の就業労働者に對する労働の短縮と名目賃銀の切下げによつて、労働者に轉嫁するのである。アメリカ合衆國に流行した一企業二改善制、英國に於ける生計費削減規定、ドイツに於ける賃銀協定率の引下げ、日本に於けるアイルランドなどによつて見れば、何れも、労働者の實際の就業度は正常労働日の半ば以下に減少され、探短労働日はまさに急速に増加しつつある。その實情は、ドイツでは昨年下半年期以來、個々の完全就業者の賃銀は物價低落の度合以上に切下げられたものが多く、イギリスでは昨秋以來各産業に賃銀切下げが行はれ、鐵道、機械工業、建築などに於ては、本年二月中だけで、五十七萬人の労働者に一週あたり五萬ポンドに近い賃銀切下げが見られ、アメリカでは、工業労働者の受取る週平均賃銀が一年前に比べて三ドル以上も低下してゐる。

ドイツ労働者の收支表

平均週賃銀率	48.30
協定率追加	+1.95
失業による喪失	-17.50
探短労働による喪失	-2.60
社會負擔、租稅	-3.90
失業手当	+6.10
實際労働所得	32.35
生計費	44.80

五